

平成24年における本県の観光客数は、毎年県が公表している「山口県観光客動態調査」によると、前年より約118万人多い2821万人で、統計を開始した昭和44年以降、最多を記録しました。本県の観光客は、ここ10年間で約2割も増加しており、順調に推移しています。

一昨年の観光客の増加には「おいでませ！山口イヤー観光交流キャンペーン」の実施が大きな要因とされていますが、大河ドラマの放映も影響しています。

平成24年放映の「平清盛」では、源平最後の合戦「壇ノ浦の戦い」が描かれ、舞台となった下関市では、観光客が前年と比べて1割以上も増加しました。

過去にも、平成22年の「龍馬伝」放映の際には下関市と萩市、平成17年の「義経」放映の際には下関市で観光客が増加しており、大河ドラマが非常に大きな集客効果を持っていることがわかります。

平成27年には、吉田松陰の妹・文を主人公にした「花燃ゆ」の放映が予定されており、昭和52年の「花神」以来38年ぶりに大河ドラマの主要舞台となる本県にとって、観光客増に向け大きな追い風になると期待されています。

さらに、平成30年には明治に改元されてから150年を迎えることから、観光における維新ブランドの強化や、関連商品の開発も予定されています。

また、素晴らしい歴史や文化資産以外にも、新鮮な魚介類を取りそろえた下関市の道の駅「北浦街道豊北」や、瀬戸内海を一望できる露天風呂を備えた上関町の上関海峡温泉「鳩子の湯」など、食や温泉を楽しめる観光資源の整備も進んでおり、これからも観光客の増加が期待されます。

